

サイロに無人出荷設備

アスプラントを効率化

大林道路

理システムのアップグレードを実施。契約書のデータ化など廃棄物処理に関する契約の管理、トラックスケールとの連携（自動計量）、マニフェスト処理（紙）のデータ化した受入れ処理の効率化などに取り組んでいる。23年1

月から試験運用開始を予定する。今後、大分センターアスコンでは製造設備の自動化にも取り組み、人材不足に対応するとともに、製造設備に使用する建設機械をなくすことでCNに貢献する。また、アスプラント混合物の製造過程でドライヤー燃焼バーナーによる骨材乾燥・加熱時のCO₂排出量削減に向けて、水素を組み合わせた混焼バーナーの燃焼実証実験も計画している。

向けた計画では、フェーズ1の21年度は無人出荷のための要素技術検証を行った。フェーズ2の22年度はサイロ無人出荷体制を構築し、フェーズ3の23年度でリモート全般を検証し、統合管理システムを構築する。その後、拠点プラントへの順次実装を進める。本店機械部機械課の川田良秀担当課長は「働き方改革、担い手不足、CNへの対応のため、プロジェクトを確立してプラントに展開し、スタンダードな形になるようにしたい」と述べている。

大林道路は、アスプラントの効率化を推進している。同社の別府サテライトアスコン（大分県別府市）に休日や夜間におけるサイロ無人出荷対応設備が完成し、運用を進めている。働き方改革や担い手不足、カーボンニュートラル（CN）への対応、競争力の強化などに向けて、2021年度からの3カ年計画で23年度に統合管理システムの構築を進めており、同設備はその一環で設置したものだ。

同社は、システム構築に向けて、別府サテライトアスコンや大分センターアスコン（大林道路・日伸建設工業JV、大分市）を効率化の試行工場に位置付けた。さまざまな部門から担当者が選出され、プラント業務のデジタル化、自動化の実現に向けて取り組みを進めている。

従来の出荷業務は受け付け、サイロへの誘導、積み込みを有人で行っていたが、無

人化出荷対応設備は休日や夜間の出荷で、事前予約が入っている場合の業務を自動化する。23年1月には、大分センターアスコンへの導入を予定している。

入退場管理ゲートを経て入場受け付け機で自動受け付けし、自動誘導モニターと自動積み込み装置によって、車両をサイロ下に誘導して自動で積み込みを行う。その後、伝票発行機により自動で伝票を



無人化出荷のようす（車両左側の画面は、自動誘導モニター）

発行する。APシステムで、車番など出荷体制に必要な情報を管理している。サイロには人を検知する装置を設置し、安全確保の体制も整えている。このほか、別府サテライトアスコンでは産廃マニフェスト管

